

最上川故里ミュージアム 今野吉一

海ごみサミットは、海岸漂着ごみ問題の改善に取り組む全国ネットワーク組織「一般社団法人J E A N」が呼びかけて2003年からスタートした。第1回目は酒田市・飛島で開催され、全国主海岸を経て、今年、第12回目が本県で開催された。

サミットには国内各地で活動している多くの団体、NPO、海外のNGO関係者ら約120人が集結し、国内外クリーンアップ活動を報告し、海岸漂着ごみ問題について討議を行った。

クリーンアップ活動で集積した過去のデータから分析すると、海岸漂着ごみは、

- ①数量、種類が多岐にわたる
- ②「破片・かけ」類が4割を占める
- ③破片を除くと陸起源類：海・河川・湖沼＝3：1と発生源は圧倒的に陸域である
- ④私たちが日常使用しているプラスチック製品、特に「飲料」「食品」「喫煙」「生活」関係のごみが陸起源類の9割以上を占める
- ⑤製品類トップ10は全体の3分の1しかなく、製品類ごみの発生抑制だけでは問題を解決することはできない。

陸域から海洋に流出したごみは、一度海底に沈むと回収が困難であり、また潮の流れによって広域に拡散する。さらに、海岸に放置されたごみは、破片化の進行が深刻で、特にプラスチック類は微小な破片となりやすいため広域に拡散し、自然界では長期間分解されないため集積していく。

産業や医療に関わるごみの流出も大きな問題ですが、私たちはまず、海岸漂着ごみの主体が、海から遠く離れた陸起源の「飲料」「食品」「喫煙」「生活」関係のごみであるところを強く受け止め、生活を見直していかなければならない。

山形県には県を代表する河川「最上川」があり、県内の多くの山々や田畑、市街地を流れた後、酒田市で日本海に注ぐ。最上川の支川は430もあり、川沿いの集落数は約500あると言われている。それら集落の区長達が協力して海岸漂着ごみ問題に取り組んで行かなければ、問題は解決しない。

海ごみの根絶に向け、森・河川・海岸のクリーンアップ活動の機運を一層強めましょう！そして、その活動の担い手の育成に取り組みましょう！